

長野県諏訪清陵高等学校附属中学校（仮称）の全体構想について

高校教育課

1 学校像について

2 中高一貫校の開校に向けた推進計画

諏訪清陵高等学校附属中学校（仮称）全体構想（案）

1 学校像について

(1) 設置の基本的枠組み

ア 設置の目的等

(ア) 目的

中学校と高等学校の6年間を接続することで、「ゆとり、まじわり、つながり」のある学校生活を送ることができ、計画的・継続的な教育指導を展開することで、生徒の個性の伸長や優れた才能の発見がより期待できる。また、異なる学年の生徒同士の共通の活動を通して、社会性や豊かな人間性の育成も期待できる。

(イ) 経過

「第1期長野県高等学校再編計画」（平成21年6月）において、多様な学びの場を提供するために、平成13年の中高一貫教育検討委員会報告書を基本に据えて、配置、形態、地域のニーズ等を考慮し、新しいタイプの高校の一つとして、中高一貫教育を導入することとした。

また、平成23年1月、県教育委員会定例会において、平成26年4月に、長野県諏訪清陵高等学校に県立中学校を設置し、併設型中高一貫校に転換することが決定された。

イ 校名

長野県諏訪清陵高等学校附属中学校（長野県立中学校条例・管理規則制定までは仮称）

ウ 設置場所

長野県諏訪清陵高等学校に設置（長野県諏訪市清水1-10-1）

エ 設置形態

併設型中高一貫校

オ 学校規模

中学校 1学年2学級80人（男女同数を基本とする。）

カ 通学区域

県内全域とするが、自宅からの通学を基本とする。

キ 開校年度

平成26年4月（諏訪清陵附属中学校1年生受け入れ開始）

ク 高等学校の課程、学科

全日制課程、普通科

(2) 教育方針

ア 教育理念（長野県中高一貫教育の理念）

人の心の痛みのわかる豊かな人間性の涵養、伸びる力を伸ばす学力の向上などにより、さまざまな分野でリーダーシップを発揮することができ、社会のために貢献できる人材の育成を目指す。

イ 教育目標

- 1 明治28年以来の伝統に培われた「高い学力」「広い視野」「強い意志」を基礎に、21世紀の社会に貢献できる優れた人材を育成する。
- 2 生活全般を通して多様な経験を積む機会を設け、豊かな人間性や公共性、社会性を育む。

ウ 目指す生徒像

次のような観点の教育活動によって育まれる生徒像を目指す。

<高い学力>

- 将来の研究活動や社会貢献につながる重厚な教養主義による確かな知性の伸長
- 探究的な学習による深い思考力と主体的に学ぶ力の涵養

<広い視野>

- 社会の人々とのふれあいをおした、共同意識やコミュニケーション能力の育成
- 幅広い年齢集団の交流を活用した、協調性や指導力の涵養

<強い意志>

- 6年間の計画的な進路学習による将来を展望する構想力と自立心の育成

(3) 教育課程の概要

ア 教育課程編成の基本方針

「高い学力」「広い視野」「強い意志」を基本に、前記「(2)ウ 目指す生徒像」が具体化される基本方針とする。

イ 中高一貫による6年間の教育の流れ

中学高校の6年間の4期に区分し、それぞれの発達段階に沿った教育課程及び教育内容を準備する。

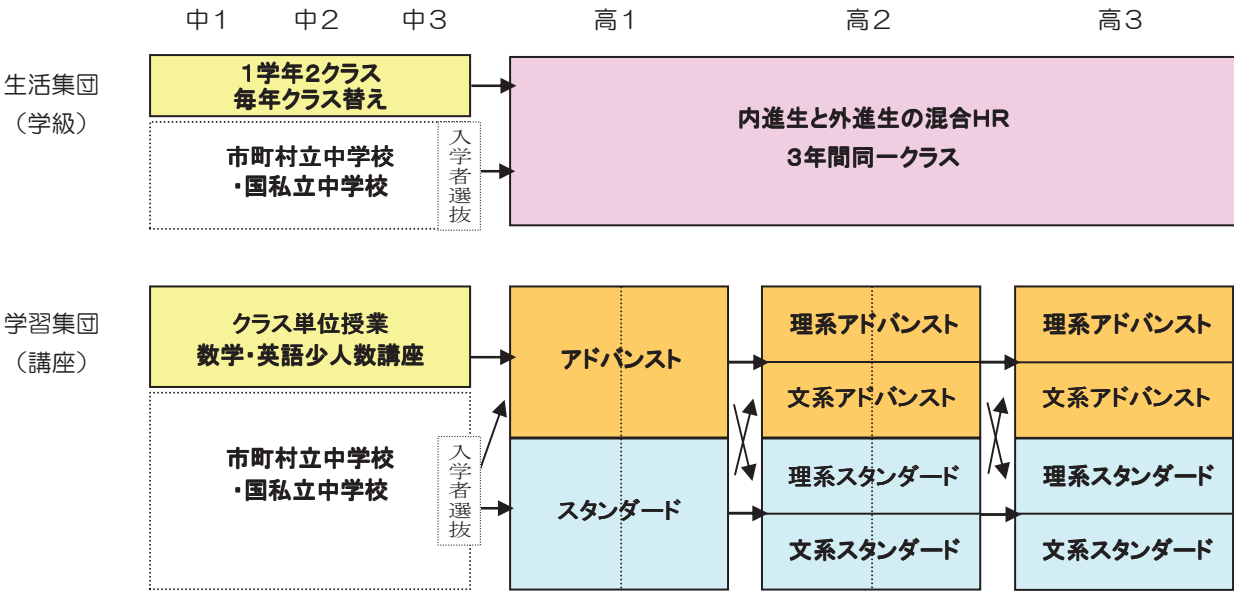
学校	学年	期	名称	内 容
附属 中学	1	I	始める	6年間の基礎を固める。学習、生活習慣の確立。 学ぶことの意義や方法の理解。集団づくり。すべてを始める。
	2	II	深める	清陵附属中学全面展開。深く学ぶ授業を中心とした活気ある生活。 高い学力、広い視野、強い意志の養成。
	3			
清陵 高校	1	III	広げる	内進生と外進生が切磋琢磨する中で、意識や行動を大きく広げる。 高校3年間の基礎を固める。
	2	IV	高める	清陵高校全面展開。自由な校風の様々な場面で自らを鍛え、仲間と共に高い志を実現する。
	3			

ウ 中学・高校の学級・講座編成

諏訪清陵附属中学校から諏訪清陵高等学校へ進学した生徒（内進生）と一般の中学から進学した生徒（外進生）を混合した生活集団（学級）、学習集団（講座）を編成することで、内進生と外進生が共に学び、互いに切磋琢磨できるようにする。

具体的には、高校段階の生活集団（学級）は内進生、外進生の割合が同一の学級を3年間継続し、学習集団（講座）は内進生と外進生を混合した習熟度別講座を毎年編成する。

((4)ア 骨太なリーダーの育成の基盤となる学級・講座編成)



※高1前期について、内進生はアドバンス講座とする。
 ※高1高2の講座は、前期終了時組み直す。
 ※SSH*については、将来的なあり方を検討し位置付ける。

*SSH：スーパーサイエンスハイスクール（文部科学省事業）
 諏訪清陵高校は、文部科学省より科学技術、理科・数学教育を重点的に行う研究開発学校として、平成14年の事業開始と同時に指定を受け、平成17年の再指定、さらに平成22年から新たに5年（平成26年まで）の再々指定を受けて活動に取り組んでいる。

エ 日課表 5時間日課（週4日）

登校した生徒から朝読書を行う。		
朝学活	8：30～ 8：40	10分
1校時	8：50～ 9：55	65分
2校時	10：05～11：10	65分
3校時	11：20～12：25	65分
昼食	12：25～13：05	40分
Eタイム	13：05～13：15	10分
4校時	13：20～14：10	50分
5校時	14：20～15：25	65分
清掃	15：30～15：45	15分
帰学活	15：50～16：00	10分

6時間日課（週1日）

登校した生徒から朝読書を行う。		
朝学活	8：30～ 8：40	10分
1校時	8：45～ 9：35	50分
2校時	9：45～10：50	65分
3校時	11：00～12：05	65分
昼食	12：05～12：45	40分
Eタイム	12：45～12：55	10分
4校時	13：00～13：50	50分
5校時	14：00～15：05	65分
清掃	15：10～15：25	15分
6校時	15：30～16：20	50分
帰学活	16：20～16：30	10分

オ 教育課程

(ア) 中学1～3年次のコマ運用表

1年	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技・家	英語	道徳	総合	特活
	3.5	2.5	3.5	2.5	1.5	1.5	2.5	2	3.5	1	2	1
2年	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技・家	英語	道徳	総合	特活
	3.5	2.5	3.5	3.5	1	1	2.5	2	3.5	1	2	1
3年	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技・家	英語	道徳	総合	特活
	3	3.5	4	3.5	1	1	2.5	1	3.5	1	2	1

※数字は、週当たりの授業の回数。1単位時間（50分・65分）については、(4)イ(イ)参照。

※週26コマで運用。総合的な学習の時間は週1コマとし、その他はまとめ取り（1日総合）を実施。

(イ) 各教科等の年間授業時数

区 分		第1学年		第2学年		第3学年	
		年間時数	標準時数	年間時数	標準時数	年間時数	標準時数
各教科の 授業時数	国 語	148.8	140	148.8	140	131.3	105
	社 会	113.8	105	113.8	105	159.3	140
	数 学	159.3	140	159.3	105	176.8	140
	理 科	113.8	105	159.3	140	159.3	140
	音 楽	57.8	45	35	35	35	35
	美 術	57.8	45	35	35	35	35
	保 健 体 育	113.8	105	113.8	105	113.8	105
	技 術・家 庭	80.5	70	80.5	70	35	35
	外 国 語	159.3	140	159.3	140	159.3	140
道 徳 の 授 業 時 数		35	35	35	35	35	35
総合的な学習の時間の授業時数		70	50	70	70	70	70
特 別 活 動 の 授 業 時 数		35	35	35	35	35	35
総 授 業 時 数		1144.9	1015	1144.8	1015	1144.8	1015

※年間時数は、35週、1単位時間50分で換算している。

※各教科等の時数は小数点以下第2位で四捨五入しているため、総授業時数に誤差が生じている。

(4) 特色ある教育活動

ア 骨太なリーダーの育成の基盤となる学級・講座編成

豊かな人間性と確かな知性を備えた、社会に貢献できる優れたリーダーの育成を目指し、前記「(3)ウ 中学・高校の学級・講座編成」のように、生活集団(学級)・学習集団(講座)を編成する。

中学校段階では、毎年のクラス替えによる、固定化しない幅広い人間関係の中で、学年単位の行事等を積極的にを行い、生徒の指導性を養いながら人間関係を深める。また、クラス単位で授業を行うことを基本とし、学力差の生じやすい数学と英語は、少人数講座を展開する。

高校段階では、混合学級・混合講座編成を行うことにより、切磋琢磨しながら内進生と外進生とが互いに学び合う中で高い学力を養成する。講座においては、習熟度別講座編成による個に応じた指導を展開し、3年間を通して全体を底上げするとともに伸びる力を一層伸ばす。このような学級・講座編成や学友会活動、学校行事等を通して、幅広い人間関係の中で協調性やリーダーシップを育成する。

イ 基礎基本の深い理解と定着を図る「深める学習」

中学校においては、スパイラル学習、深く考える学習、主体的な調べ学習からなる「深める学習」を中心に展開し、基礎学力の定着や主体的に学習する姿勢、課題解決能力等の育成を図る。

スパイラル学習	過去に学習したことに立ち戻ったり、将来学習するであろうことにあらかじめ触れたりしながら、繰り返し学ぶことを通じて、基礎基本を深く理解し定着させる学習
深く考える学習	与えられた課題を、持てる知識を総動員し、仲間と協力しながら解決していく学習
主体的な調べ学習	総合的な学習の時間などでの取り組みのほかに、宿題や課題の与え方等により日常的な学習としても実施する

以上の学習などを通して学びの基礎基本をしっかり固め、高校段階における飛躍的な学力伸長のための土台づくりをする。

(ア) 様々な視点から繰り返し学ぶスパイラル学習

過去に学習したことに立ち戻ったり、将来学習するであろうことにあらかじめ触れたりしながら、一つのことを様々な視点から繰り返し学ぶことを通じて、基礎基本を深く理解し定着させる。

この学習は、一つの教材、単元を何回も扱い、新しい見方も加え、深めていく方式をとる。実質的に発展学習として高校の学習内容を扱いつつも、その都度仕切り直しをして何回も扱う形をとるので、高校1年次に外進生を迎えたところで、同じスタートラインから始めることができる。

(イ) じっくり学び、深く考える 65 分授業

各教科等や学習活動の特質等に応じて、1 単位時間を 50 分とする教科等と 65 分とする教科とに分け、メリハリのある日課とする（(3)エ 日課表、オ 教育課程）。

具体的には、2 時間続きを前提としている美術・技術・家庭については、生徒の活動への集中力、持続力に配慮して 50 分授業と 65 分授業の組合せにする。また、65 分授業を主とする教科については、今までの授業で不足しがちであった、「気づくこと、学ぶこと、活動すること、考えること、まとめること」などの要素を組み入れた授業を展開するとともに、理科における観察・実験の充実、数学における演習の充実、英語における 4 技能の充実、保健体育の活動時間の充実など、各教科の特色をより明瞭にした授業を展開する。このような 65 分授業を基盤とした授業を展開することで、深い理解と定着を図る「深める学習」を具現する。

65 分授業を行う教科	・社会 ・理科 ・英語 ・保健体育
50 分授業と 65 分授業を行う教科	・国語（主に 65 分授業。1, 2 年の週 1 コマ、3 年の週 0.5 コマは 50 分授業とし、書写を主に行う。） ・数学（主に 65 分授業。3 年の週 0.5 コマは 50 分授業。） ・音楽（主に 50 分授業。1 年は週 1 コマ 50 分授業+0.5 コマ 65 分授業。） ・美術（主に 50 分授業。1 年は週 1 コマ 50 分授業+0.5 コマ 65 分授業。） ・技術・家庭（1, 2 年は、週 1 回 50 分+65 分の 2 時間続き授業。）
50 分授業を行う教科等	・道徳 ・学級活動 ・総合的な学習の時間（週 1 コマとし、その他は 1 日総合。）

ウ 社会性や研究の意義と意味を体得する「体験的・課題探究的な学習」

総合的な学習の時間とともに、次の(ア)(イ)の教科等における「課題設定・調査研究・発表」をととして、社会性（コミュニケーション能力等）や研究の意義と意味を体得する。

(ア) 深い思考力と主体的に学ぶ力を涵養する理数教育

諏訪清陵高校のもつ、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の教育資源を活用しながら、伝統ある理科・数学教育の発展を図り、探究的な学習による深い思考力と主体的に学ぶ力を養う。

〔活動例〕

理 科	・「事象との出会い→予想・仮説→観察・実験→結果の整理・考察→振り返り・体系化」の展開における気づきや深く考えることの重視 ・65分授業による観察・実験等の演習と結果の整理・考察・体系化の時間の確保 ・電子顕微鏡や太陽光発電システム等を活用した体験的な授業の展開
数 学	・「課題把握→個人追究→共同追究→まとめ→定着・活用」の展開における比較・検討することの重視 ・豊富な授業時数を活用した基礎基本の確実な定着と、発展的な学習（高校の学習内容）の充実
課外活動	・課題研究 ・高校生との共同研究 ・三澤勝衛先生の教育（実物に触れ、自分の頭で考える三澤教育の迫体験） ・地域の自然（諏訪の活断層、諏訪湖、霧ヶ峰等） ・太陽の黒点観測と太陽エネルギー

(イ) 共同意識やコミュニケーション能力を育成する国際理解教育

広く世界へ目を向け、多様な文化を理解・尊重しようとする姿勢をもつとともに、国際社会で活躍するための知識や能力を育む。特に、英語によるコミュニケーション能力の伸長を図る。

〔活動例〕

英 語	・海外の学校等とのプロジェクト学習を通じた交流 ・多読指導の充実 ・スピーチ、ディスカッション、ディベート活動の重視 ・中学段階で英検準2級の全員取得、高1段階で英検2級取得を目指す
Eタイム	・毎日10分間の英語学習（年間35時間） ALTとの会話、スピーチ、歌、多読等の活動
社 会	・フィールドワーク・交流の充実 「地域を知る、自分たちを知る」：地域探索（産業・文化等） 「相手を知る」：地域に住む外国の方との交流 「地域のために何ができるか考える」：社会貢献的な活動（総合的な学習の時間へ発展）

エ 豊かな人間性を育む多様な体験

高校と連携しながら中学校教育全体を通じて様々な体験活動を実施することで、指導力や協調性、豊かな情操、道徳性を育む。

特別活動	○指導力や協調性を涵養する幅広い年齢集団の交流 ・中高共催の学校行事や学友会行事 ・部活動（クラブ活動） ○社会性や協調性を育む他校との交流 ・特別支援学校 ・地域の小中学校 ・屋代高校附属中学校
情操教育	○本物に触れ、豊かな情操を育てる授業、部活動 ・より専門的に学べる高校教員による芸術の授業（書写、音楽、美術）* ・充実した高校文化系クラブ
図書館教育	○豊かな心情と幅広い知識を身に付ける読書指導 ・毎日の朝読書の実施 ・中学校図書コーナーの設置 ・より専門性の高い高校図書館の利用
心の教育	○豊かな道徳性の涵養を図る心の教育 ・ボランティア活動や自然体験活動、職場体験等の体験活動を通じた道徳教育、人権教育の推進

* この他の教科についても中高教員の相互乗り入れ授業を検討中。

オ 将来を展望する構想力と自立心を育むキャリア教育

生徒が自らの在り方生き方について考え、将来への夢や希望を抱き、その実現を目指して、自らの強い意志と責任で自己の進路を選択することができるよう、6年間の計画的な進路指導を行い、キャリア教育を推進する。

〔活動例〕

社会理解と生き方の探索（中学）		進路の考察・選択と自己実現（高校）	
広く社会を見つめる中から、社会における役割や将来の生き方を考える。		自己の在り方生き方を考える中で、将来設計、進路希望の実現を目指して課題を設定し、その解決に取り組む。	
I 始める（中1）	II 深める（中2、3）	III 広げる（高1）	IV 高める（高2、3）
<ul style="list-style-type: none"> 自分のよさや個性がわかる。 将来に対する夢や憧れを抱く。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来への夢を達成する上での現実の問題に直面し、模索する。また、困難を克服するための努力に向かう。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な情報の収集と活用により、進路選択の幅を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路について具体的な目標と課題を定め実行に移す。
<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション合宿 職業調べ 憧れの先輩の職場訪問・体験 	<ul style="list-style-type: none"> 医療現場、先端企業、研究施設等の見学 福祉・ボランティア体験 大学見学（難関大、医学部） 学習合宿 	<ul style="list-style-type: none"> 学習オリエンテーション 職業調べ・体験 分野別進路講演会 	<ul style="list-style-type: none"> 大学見学、職業体験等 分野別進路講演会 外部講師による進路講演会
<ul style="list-style-type: none"> 社会人講演会 「リーダーに学ぶ」リーダーシップセミナー 特別支援学校との交流 		<ul style="list-style-type: none"> サイエンスフォーラム講演会 卒業生の合格体験談 PTA 講演会 	
・林業体験（学有林）		・教育実習生との懇談会	

カ 実践的な言語活動を充実させるアカデミック・コミュニケーション（総合的な学習の時間）

知的活動（論理や思考）、コミュニケーションや感性・情緒の基盤である国語学習の成果を重視し、言語活動を充実させる。具体的には、国語科における読み書きなどの基本的な力の定着を図るとともに、総合的な学習の時間「アカデミック・コミュニケーション」においても記録、要約、説明、論述、討論といった学習活動の充実を図る。

〔育てたい力を育む活動〕

- ・教科で学習した知識・技能を活用し、関連付け解決し、学習意欲を喚起する探究的な活動
- ・言語能力・アカデミックスキルを向上させる活動
- ・コミュニケーション能力・リーダーシップを向上させる活動
- ・キャリア教育、体験、ものづくり、多様性、地域連携等を組み込んだ活動

〔題材（例）〕

次のような視点をもとに、問題解決的な活動が繰り返される探究的な学習を展開する。

視点	題 材
グローバル	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化、日本の文化 ・JICA 駒ヶ根 ・イングリッシュキャンプ ・海外語学研修旅行（希望者）
サイエンス	<ul style="list-style-type: none"> ・三澤勝衛先生の教育 ・地域の自然 ・自然エネルギーの活用 ・地域の産業（諏訪圏工業メッセ）、ものづくり、特産物 ・高校主催のサイエンスフォーラム、課題探究発表会
キャリア	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション合宿 ・職業調べ ・職場見学・体験 ・医療現場、先端企業、研究施設等の見学 ・大学見学 ・福祉・ボランティア体験 ・林業体験（学有林） ・各界のリーダー、OB・OG、保護者による社会人講演会

〔具体的方法（例）〕

探究活動の過程において、次のようなプロジェクトを用いて言語活動（記録、要約、説明、論述、討論）の充実を図る。

プロジェクト	内 容
ジャーナル・プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ①グループ（4人）による協働学習、一斉学習、個別学習 ②プロセスライティングによる協働学習 ③講演会等の行事+教科学習関連等の指定記事と自由記事の組合せ ④取材活動を通じて講演会、体験活動等の行事への主体的参加 ⑤単なるレポートではない個性や創造性の発揮 ⑥編集長は各回交代で全員がリーダー経験 ⑦作品はデジタル化・公開してフィードバックを得る ⑧英語版やウェブ版の作成

ディベート・プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチ（日本語、英語レシテーション、スピーチ） ・ディスカッション（英語で、ジャーナル・プロジェクトで） ・ディベート（日本語、英語）
リサーチ・プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文、製作、発表 <p>グループを基本に個人でも追究 卒業時に発表会</p>

キ 地域に開かれ、地域と共にある学校

(ア) サタデイ・スパイラル・セミナー

地域と共に学ぶ土曜地域開放講座を地域の方々の支援を得て開講する。また、生徒に対する補充的な学習や発展的な学習を行う土曜学習講座も計画する。

〔活動例〕

サタデイ・スパイラル・セミナー	土曜地域開放講座 <ul style="list-style-type: none"> ・先輩、保護者、地域の方による多岐にわたる講座 <p>受講対象：本校生徒、域内の小中学生、保護者、地域の方</p> <p>講師：OB・OG、保護者、地域の方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校生徒がアシスタントになり、小学生に教える英会話教室、算数教室等
	土曜学習講座 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の確実な定着を目指す繰り返し学習 ・新たな視点から伸びる力を伸ばす応用学習

(イ) 地域や地域の小中学校との連携

日常的な教育活動の場面においても地域の方々の支援を得られるよう、学校支援ボランティアの仕組みを導入する。

学校支援ボランティア (例)	〔学習支援〕
	<ul style="list-style-type: none"> ・技術・家庭科等の実習支援、総合的な学習の時間の補助等、各教科等指導の支援 ・ウェブサイトを活用した学習成果物の評価
	〔図書館〕・図書コーナーの管理 ・朝読書での読み聞かせ
	〔登下校時〕・登下校時の安全指導
	〔環境整備〕・校舎回りの植栽の世話
	〔学校案内〕・授業見学者の案内

また、地域の教育力向上につながるよう、地域や地域の小中学校に対して積極的に学校を公開し交流できるようにする。

授業公開	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の教育活動についてご意見をいただいたり、地域の方々と共に教育を考えたりする機会として、授業公開を実施
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイト等を活用した積極的な情報発信、交流の推進

(5) 学校生活

学校行事、部活動、生徒会活動については、心身の発達段階に配慮して計画・立案する。

ア 主な学校行事（予定）

学校行事については、中学生に知的な刺激を与える観点から考慮し、可能な限り中高共催とする。（PTA講演会、サイエンスフォーラム、課題探究発表会）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<ul style="list-style-type: none"> ・入学式・始業式 ・サイエンスフォーラム 	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉考査 ・クラスマッチ 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査① ・中体連体育大会 ・人権教育講演会 ・芸術鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・清陵祭 ・サイエンスフォーラム 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・終・始業式 ・定期考査② ・端艇大会 ・クラスマッチ 	<ul style="list-style-type: none"> ・湖周マラソン ・PTA講演会 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査③ 	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談会 ・サイエンスフォーラム 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査④ 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査⑤ ・学習発表会（含音楽会） ・課題探究発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業式 ・終業式

イ 部活動、生徒会活動

(ア) 部活動（クラブ活動）

部活動については、中学生の身体能力等に十分配慮し、中高同一の活動を精選する。また、中学校設置部活動については、生徒数、施設、活動時間等を考慮して決定する。

(イ) 生徒会活動（学友会活動）

学友会は、中学生自身の指導力の涵養を考え中高別組織とする。また、学友会行事については、高校生の指導力育成の観点から考慮し、実施方法を含めて共催の可能性を検討する。（文化祭、クラスマッチ、端艇大会、湖周マラソン）

ウ 校歌、校章、校旗

(ア) 校歌 諏訪清陵高校で伝統的に歌い継がれてきた4曲の中から選定する。

(イ) 校章 諏訪清陵高等学校の校章を諏訪清陵附属中学校の校章とする。

(ウ) 校旗 校章をもとに制作する。

エ 制服等

(ア) 制服

県立中学校として品位や連帯感が持て、公的な儀式にも適するように、中学生は学校指定の制服を着用する。（義務教育課程を修了した高校生からは、自立の節目として制服を自由とする。）

(イ) その他

通学かばん、運動着、上履き等についても学校指定のものとする。

オ 給食

自宅からの弁当持参を基本とする。ただし、希望者に業者による弁当を斡旋する。

カ 通学方法

通学方法は、徒歩または公共交通機関の利用を原則とする。

2 中高一貫校の開校に向けた推進計画

◎教育委員会定例会○高校教育課主催会議

年 度	月	屋代高校附属中学校	諏訪清陵高校附属中学校（仮称）
23年度	3 月		◎教育委員会定例会（15日 全体構想報告）
24年度	4 月	・開校式、入学式（5 日）	○第 1 回開設準備本部会議
	5 月	・平成25年度県立中学校入学者選抜要綱告示	○地域説明会（茅野・諏訪・岡谷・伊那・塩尻・松本）
	6 月	・学校説明会	
	7 月		・学校説明会（～12月）
	8 月		○第 2 回開設準備本部会議
	9 月	○県立中学校入学者選抜実務担当者会議（北信・東信・中南信 3 地区）	
	10月	・県立中学校入学者選抜説明会	
	11月		
	12月	・平成25年度県立中学校入学者選抜（8 日）	
	1 月	・平成26年度入学者選抜日程の決定	○第 3 回開設準備本部会議
	2 月		
	3 月		◎教育委員会定例会（具体像報告）
25年度	4 月		○第 1 回開設準備本部会議
	5 月	・平成26年度県立中学校入学者選抜要綱告示	
	6 月	・学校説明会（屋代・諏訪清陵） ・県立中学校条例、管理規則の改正（諏訪清陵）	
	7 月		
	8 月		○第 2 回開設準備本部会議
	9 月	○県立中学校入学者選抜実務担当者会議（北信・東信・南信・中信 4 地区）	
	10月	・県立中学校入学者選抜説明会（屋代・諏訪清陵）	
	11月		
	12月	・平成26年度県立中学校入学者選抜	
	1 月	・平成27年度入学者選抜日程の決定	○第 3 回開設準備本部会議
	2 月		
	3 月		
26年度	4 月		・開校式、入学式
	5 月	・平成27年度県立中学校入学者選抜要綱告示	
	6 月	・学校説明会（屋代・諏訪清陵）	
	7 月		
	8 月		
	9 月	○県立中学校入学者選抜実務担当者会議（北信・東信・南信・中信 4 地区）	
	10月	・県立中学校入学者選抜説明会（屋代・諏訪清陵）	
	11月		
	12月	・平成27年度県立中学校入学者選抜	
	1 月	・平成28年度入学者選抜日程の決定	
	2 月		
	3 月		